

新年の

ごあいさつ



市民の期待に応える 議会を目指して

稲沢市議会議長 出口勝実

あけましておめでとうございます。

市民の皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。日ごろから本市議会へのご理解と、議会活動に対する温かいご支援ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年はスポーツ界において、冬季オリンピック・パラリンピックを皮切りに、野球やバドミントン、卓球など、国内外の大舞台で輝きを放つ日本人選手たちが、ワクワクする気持ちや勇気、感動を与えてくれました。サッカーワールドカップでの日本代表選手の活躍も、記憶に新しいところです。

一方で、新型コロナウイルス感染症拡大がもたらした影響は、個人個人の感染リスクの問題をはじめ、医療、経済、さらには国際問題と多岐にわたっております。何を行うにも手探りの状態ではありましたが、昨年は、これまでのような行動制限を行うのではなく、社会経済活動をできる限り維持する方向へ政策がシフトされました。それにより、イベントの開催制限や水際対策も緩和され、徐々にまちに活気が戻ってきたと感じております。しかし他方では、エネルギー価格の高騰や相次ぐ物価の上昇が市民生活を直撃しており、市議会といたしましても執行機関へ積極的に働きかけ、アイデアを出し合い、市民の皆さまの平穏な生活を取り戻せるよう、引き続き努力してまいります。

本年私共は、市議会議員としての4年の任期が満了する総括の年となります。10月には新たな顔ぶれで市議会が構成されますが、稲沢市がさらに上の次元に進むよう、二元代表制の一翼を担う機関として、皆さまの負託に応えてまいりたいと存じます。

結びに当たり、「禍も三年経てば用に立つ」ということわざのように、新型コロナウイルスによってもたらされた苦しい経験が、きっと何かの役に立つ日が来ることを信じ、この2023年が市民の皆さまにとって明るく豊かな年になりますよう心から祈念いたしまして、新年のあいさつといたします。



新たな体制で 魅力あるまちへ

稲沢市長 加藤錠司郎

あけましておめでとうございます。

市民の皆さまにおかれましては、輝かしい初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、「厳重警戒」の中ではありましたが、新型コロナウイルスの感染対策を講じながらさまざまな祭りや行事が再開されるなど、本来の稲沢市の姿を取り戻しつつある1年となりました。しかしながら、年末には新たに第8波に入るなど、まだまだ予断を許さない状況となっております。

市では、長引くコロナ禍、ウクライナ情勢や円安などの影響による物価高騰を受け、市独自の経済的支援として、学校給食費や保育園副食代の無償化、水道料金の基本料金免除など、さまざまな施策を実施しております。中でも、保育園などで使用する紙おむつの無償提供事業は、先駆的な取り組みとして大変好評をいただいております。本年も更なる支援の拡充を図るとともに、「子育て・教育は稲沢で！」の実現に向けて積極的に取り組みを進めてまいります。

4月には、より効率的かつ合理的で市民に分かりやすい組織とするため、組織・機構の見直しを行います。市長公室を「総合政策部」とし、政策立案・政策調整機能の強化に向けて部内の所掌事務を見直すとともに、本市PRを更に推し進めるため、「シティプロモーション課」を創設します。また、建設部を「まちづくり部」と「建設部」に分割・再編し、都市基盤整備事業の促進を図ってまいります。

内外ともに先の見通しが困難な状況ではありますが、With/After コロナ時代を見据え、DX（デジタルトランスフォーメーション）やカーボンニュートラルの実現など、新たな時代のニーズに対応し、持続的に発展する魅力あるまちづくりに全力で取り組んでまいりますので、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに当たり、本年が皆さまにとって健康で希望に満ちた一年となりますよう心よりお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。